

# twitter山髭作品集

【幽霊のつぶやき】

## 起きたら！

---

今朝、起きたら、死んでいた！つまり幽霊になっていました。人にも物にも触れません。不思議なことに愛用していたPCは使えます。そのうち夕方になりました。ツイートしました。これがそのツイートです。

## ツイッター小説

---

『幽霊のつぶやき』というタイトルのツイートが現れた！変だ！そのタイトルのツイートは、私が昨日投稿したツイッター小説だ！アカウントを見た、私のものだ！・・・目眩がした・・・。何か忘れている・・・思い出した！昨日、死んだんだ！

## 気になるニュース

---

1週間で過ぎた。私に出来ることは、ツイッターしかない。気になるニュースがあった。高齢者の生死が偽られていると言うもの。私も死んだ、誰もまだ知らない！そのことをツイートした。よかった、返信がきた！しかし、内容は「悪い冗談はよせ！」

## 窓の外

---

真夜中のことである。窓の外に人の気配がする。恐る恐る窓を開けて外を見る。空中に人が浮かんでいる！思わず叫んだ！「幽霊だ！」 「お前もな！」幽霊が言う。

## 駅

---

結末を迎えるために駅に向う。駅には大勢の人がいるが、誰も私に気がつかないように行きかう。電車が来た！線路に飛び降りる！電車は私の体をすり抜けて行く・・・やっぱり！【幽霊のつぶやき5】

## 彼女が死んだ

---

憧れの彼女が死んだ！私は霊安室へ忍び込む。彼女はまるで生きているように見える。そして、彼女の唇にそっと自分の唇を合わす・・・「この変態！すけべ！」後ろから頭をポカリ、彼女は後ろにいた！

## お昼まだ

---

「お昼まだ！」と私。「お昼？食べるの？」と彼女。「だってもう3時過ぎているよ！」「お腹すいた？」「朝から何も食べていないから！」「何で幽霊が食べるのよ！」と彼女。幽霊のクセに幸せを感じてしまう私であった



## TLの幽霊

---

TLに幽霊が出るという噂がある。投稿者は分からない。真夜中、怖いもの見たさと投稿者を突き止めたくて、ツイートをしながらTLを注意深く見る。特に変なツイートはない！ と思ったときあるツイートから人の顔が浮かびあがる！投稿者を見る！ 私だった！

## 風邪気味

---

風邪気味で医者へ行った。医者に診察を受ける。医者は急に深刻な顔になる！「先生、ただの風邪ではないのですか？そんなに深刻な病気なのですか？」医者は言う。「貴方は死んでいる！」そうだった！私は幽霊だった！たまに忘れる・・・

## 霊能者

---

霊能者は言った。「あなたは女の霊に取り憑かれている」帰宅して、同棲している女にその事を告げると「そりゃあそうですね。私、幽霊だから」「ええ！」驚いた！「何に驚いているのよ！あなたも幽霊のくせに！」そうだった！私は幽霊だった！よく忘れる・・・

## 未練

---

私は幽霊！そして彼女も幽霊！私は彼女に聞く「この世に未練があると幽霊になると言う。お前は何に未練があるのだ？」「わからない！ただ、生きた実感がないだけ」彼女は答える。「あなたは？」「わからない！ただ、ツイッターもっとやりたいだけ！」・・・？

## ビール

---

「乾杯！」ビールをぐっと飲む！ビールは友人と飲むのが美味しい！酔いが回って体が浮いているようだ！いや！本当に浮いている！そりゃそうだ！我々には体がない！ビール 古代エジプトでは死者に供えられていた

## 冬眠でもするか

---

私「暇だ！」彼女「冬は私たちの季節ではないから」私「冬眠でもするか！」彼女「私は雪女の真似でもしますか！ねえ、どこで冬眠するの？」。「南極」「私はNY」・・・『南極の氷の中に人影が発見されました！おそらく、古代人・・・』TVニュース

## 雪女の真似でもしますか

---

私「暇だ！」彼女「冬は私たちの季節ではないから」私「冬眠でもするか！」彼女「私は雪女の真似でもしますか！ねえ、どこで冬眠するの？」。「南極」「私はNY」・・・『NYで変わったファッションが流行中です。まるで、日本の雪女・・・』TVニュース

## 体だけの関係

---

彼女「私達、所詮体だけの関係なのよ！」私「それは違う！」彼女「そんなことない、貴方は私の体が目当てでしょう！」私「そんな訳はない！だいたい俺達にはもう体はない！」